

## 2020年度図書館専門委員会会議録

- 1 日 時 2021年3月9日（火）午後2時から午後3時30分まで
- 2 会 場 愛知県図書館 5階 大会議室
- 3 出席者 委員7名（伊藤委員、魚住委員、梶原委員、大道委員、山本委員、吉村委員、渡辺委員）、館長、副館長、資料支援課長、サービス課長、各グループ課長補佐8名、文化芸術課職員2名、その他県図書館職員（事務局）5名
- 4 傍聴者 なし
- 5 取 材 なし
- 6 発言要旨 以下のとおり

### 【開会】

館長

公共図書館を取り巻く社会状況は1年で大きく変化した。新型コロナウイルス感染症の拡大により多くの公共図書館が休館し、利用の制限を余儀なくされたが図書館の開館継続を求める声が全国的に高まったことは、公共図書館への地域住民の期待の大きさを改めて認識するきっかけとなった。

本日の専門委員会では、当館の再開館後の取り組みと年度の事業報告を議題とさせていただく。地方財政の状況は依然として厳しい状況にあり、当館においても資料費の確保や設備の更新・拡充などの課題を抱えている。限られた資源を有効に活用するためには、これまでの取り組みを点検・評価するとともに、将来を見据えて効果的な図書館事業を計画していくことが重要と考えている。忌憚のない意見をお願いしたい。

### 【参加者自己紹介】

#### 【議題1 委員長の選出について】

委員会開催要領第2条3項により、委員長は委員の互選により選出する旨、事務局から説明した。大道委員から、梶原委員にお願いしたいとの発言があり、各委員の賛同が得られたので梶原委員を委員長に選出した。委員長代理として伊藤委員が指名された。

#### 【議題2 再開館後の取組みについて】

資料に基づき、再開館後の取組みについて説明（副館長）。

梶原委員長

ただいまの報告について御意見、御質問があれば御発言をお願いしたい。

伊藤委員

資料1の2各サービスの取組みの中の「オンラインを利用した取組み」について、来館できない方への配慮というのは大事な取組みだと思うが、具体的にはどのように周知しているのか。

電子書籍サービスについての資料1（別紙）の4「利用実績」で、他自治体の2019年度の利用実績を挙げているが、今年度と状況は全く違うので比較しづらいのではないかと。

サービス課児童・AV・障害グループ課長補佐

来館できない方へのサービスについては、ホームページや記者発表等でお知らせしている。中日新聞などのメディア、特にNHKのニュースで取り上げられた後に電子書籍サービスへの問い合わせが増えた。

電子書籍以外のサービスについては、おはなし会など実施できていないサービスの代わりに絵本の選び方や紙芝居のやり方など、自宅で本に親しんでもらえるサービスを動画で提供した。また、視覚障害者の方へMicrosoft Teamsを使用した対面朗読サービスを1月から試行している。普段利用している方から使い勝手を聞き工夫しながら、また、まだ利用されていない方へはサービスをメール等でお知らせするなど広報している。

伊藤委員

サービスを実施していく中で、利用者の方はスマートフォンなど電子環境をお持ちの方を前提にされているのか。

総務課企画グループ課長補佐

インターネットを使うので実施は電子環境がある方が前提となる。できるだけ広く多くの方に知っていただく方法を検討したい。

梶原委員長

Microsoft Teamsを使用する対面朗読サービスは対一なのか対複数で実施するのか。

サービス課児童・AV・障害グループ課長補佐

対面朗読サービスは基本的には対一だが、場合によっては朗読をするボランティアと図書館と利用者の三者で行う場合もある。今までは朗読のためにボランティアも利用者の方いづれにも来館してもらう必要があったが、環境さえあれば利用される方もしくはボランティアも来館せず自宅からアクセスして行うことが可能となった。

梶原委員長

伊藤委員から指摘のあった、他の自治体との比較についてはどうか。

資料支援課資料グループ課長補佐

電子書籍の利用については始まったばかりで非常に多く利用されており、利用実績は県図書館が突出した数字となっている。指摘の通り、比較しづらいと思うが、数字が落ち着いたところで他の図書館と比較し引き続き検討したい。

資料支援課資料グループ主査

資料は他県・市町村の状況を聞き取り調査した結果であるが、2020年度は月平均が出せない自治体があったため2019年度の数字を挙げた。2020年度の利用は昨シーズンの2倍から3倍という結果であった。2～3倍してもほしい月平均3桁の利用数となっており、当館の利用数が飛び抜けて多くなっているが、平均しても当館の利用が多い傾向にあったと言える。

梶原委員長

他に御意見、御質問があれば御発言をお願いしたい。

吉村委員

電子書籍サービスについての資料（別紙）の5「他自治体の導入状況」（2）で、瀬戸市立図書館の約600冊を800冊と訂正して欲しい。2月末に補正予算で導入したばかりだが来年は1,000冊追加する予定である。県図書館は来年以降、何冊の追加を予定しているのか。

資料支援課資料グループ課長補佐

瀬戸市立図書館の冊数の誤りについて、大変失礼した。来年度以降の電子書籍については利用が非常に多いので充実を考えていく必要があると認識している。しかしながら来年度の電子書籍の予算がはっきり決まっている訳ではないので、紙の資料等の割合・比率も考えながら検討したい。

梶原委員長

他に御意見、御質問があれば御発言をお願いしたい。

山本委員

電子書籍サービスには読み上げ資料が含まれていると思うが、視覚障害など読書に障壁がある方の利用状況について、数字として分からない部分だと思うので実際の感想などを教えて欲しい。また、多様なニーズという事に関して、多言語を図書館として打ち出すのであれば、電子書籍のサイトそのものも多言語で表記したり、入っている書籍も多言語で、外国籍の方が必要とする資料があれば良いと思う。多言語対応の方向性について教えて欲しい。

資料支援課資料グループ課長補佐

電子書籍の読み上げについては、5,529冊のうち1,000冊程度が読み上げ機能がある。当館が導入しているKinoDenの読み上げ機能というのは、いわゆる視覚障害者の方が使う読み上げ機能ではなく機械的に読み上げるものであり、視覚障害者の方には利用しづらいと聞いているので検討が必要と考えている。さまざまな資

料の提供の仕方があると思うが、読み上げ資料や多言語の書籍についてもKinoDenの中でできる限りのサービスの提供を考えていきたい。

サービス課児童・AV・障害グループ課長補佐

視覚障害者サービスの登録者は現在450人ほどで、デジタルを扱える方に電子書籍サービスの使い勝手を聞いている。読み上げ機能に対応できていないところもあるので、確認しながら対応していきたい。マイライブラリから電子書籍サービスに入る入口が分かりづらいという声があるので改善していきたい。

梶原委員長

他に御意見、御質問があれば御発言をお願いしたい。

渡辺委員

資料1の4「運営指標の状況」の主要紙での評価について、プラス評価記事の割合が50パーセントとなっている。記事は参考資料6「広報の結果」になるが、記事のプラスとマイナス評価はどういう基準で評価しているのか。

図書館の方がマイナスに評価しようが、例えば切り取りの記事などは、記者は被害が無くなるよう警鐘を鳴らす、事実を伝えようとしているのであり、マイナスの記事が多いという事をそれ程気にすることはない。プラス評価の記事が増えるのは良いことではあるが、それよりも事実が伝わるよう取材に応じていただければ良いと思う。

総務課企画グループ課長補佐

広報の評価については以前図書館専門委員会と話し合いながら決めてきたものである。元は経団連の広報センターが企業に広報についてアンケートを取っており、どのように広報効果を測定・評価するかについて考察を加えたものを参考にした。記事の内容を評価して中立的な記事、それ以外の悪い記事でもなく事実告知的でもない記事をプラス、例えばいつ図書館専門委員会があるかというような事実告知的な記事、資料の切り取りなどの良くない記事があった場合はマイナス評価としている。

広報の評価は難しいので、しばらくやってみてまた新たな良い方法を検討していきたい。

梶原委員長

電子書籍サービスは今後、県図書館の資料収集方針やサービスを大きく変化させていくこととなるので、委員の皆様の様々な立場から御意見をいただきたい。

伊藤委員

電子書籍サービスのリストを拝見したところ、コンピューター関連の書籍が多かったように思う。そもそも日本語の資料で電子書籍になっており幅広く利用できる分野というのは限られている。県図書館の導入の取り組みとしては妥当なところからスタートされたと思う。

常日頃から県図書館と市町村図書館との違いを明確にしていかなければいけな

いと考えている。多言語資料は県図書館としてサポートして欲しいが、文芸書やメジャーな作家の作品などは市町村図書館にお任せできる部分ではないか。

住み分けを明確に方針として打ち出せば利用者は使い分けができ、電子書籍サービスの利用も進むと考えている。

#### 大道委員

電子書籍のリストを見ると、専門的な知識を求める人にとって貴重な資料が多いと感じた。これだけ多くの閲覧数があるということは専門的な資料への県民の隠れたニーズがあり、県図書館としての存在意義が示されたと言える。

いわゆるリカレント教育、社会人の学び直しも盛んに言われており、専門的な教養、あるいは社会の変革に伴い必要とされる新しい知識や技術などに社会人のニーズがある。電子書籍の充実は生涯学習の点でも大変良いと思う。

#### 魚住委員

一市民としての意見だが、パソコン関係や医療系の事を調べるのに電子図書館サービスを使わせていただいた。パソコン関係の資料は1冊まるごと見るのではなく、検索してヒットした資料の中を確認し、さらにこの本がどの図書館にあるかを調べるという経由手段として使えたことが便利だった。検索機能については、図書の中身を単語で検索したがヒットせず、索引には載っていたということがあった。検索機能は今後とも改善していただきたい。

#### 梶原委員長

渡辺委員に御意見をお願いしたい。新聞も電子化が進んでいると思うがいかがか。

#### 渡辺委員

電子化についてはいまだ紙の新聞が生命線となっており、弊社でも70代以上の方が読者層の中心である。昨年頃から色々進めつつあるが、電子版の新聞を普及させていくのは弊社に限らずなかなか成功していない状況である。

県図書館の12,000件という閲覧数を見ても、有用なサービスであり県民は非常に期待している。今後も冊数を増やしてニーズに応えていって欲しい。

#### 梶原委員長

電子書籍サービスについて、本日いただいた意見を参考に今後も検討していただきたい。

#### 山本委員

電子書籍サービスについて、周りの方に聞いたところ、学術書が入っているので調査研究とかライター、ジャーナリスト、研究者の方に好評だった。しかし県図書館を利用していない方だと登録のために来館しなければならないことがハードルになっている。

広報の点からこちらから出向く、例えば使い方の説明会を開催しそこで電子書籍サービスの利用登録ができると、潜在的な利用者を掘り起こすことができるの

ではないか。

私が使っていて思ったことは、例えば全文検索して、ヒットした箇所が実際には画面のマーカー部分から探せなかったり、検索画面で次にどこを押すと、本の中身が検索できるのかが画面上でわかりづらかった。今後は使いやすさについても改善をお願いしたい。

梶原委員長

電子書籍サービスについては今後も長い目で見て検討していただきたい。

資料支援課資料グループ課長補佐

図書館向けの電子書籍サービスは何種類もあり、導入するサービスによって購入できる書籍も違う。今回導入したKinoDenはどちらかというと専門的な資料が多く、県立図書館に合っているといえる。

県図書館が電子書籍を導入すると、利用対象は基本的に愛知県内の方ということで、愛知県図書館が入れた電子書籍は市町村図書館は所蔵していなくても県図書館の利用者であれば閲覧できることになる。既に電子書籍を導入している市町村図書館との住み分けも考える必要がある。

KinoDenは大学図書館での導入が多く、公共図書館では愛知県図書館が3番目位であり、購入冊数は最も多い。今後も皆様の御意見を踏まえ、紀伊国屋書店と連携しながら使い勝手の向上を進めていきたい。

梶原委員長

検討をどうぞよろしくをお願いしたい。

他に意見がなければ議題2については了承でよろしいか。

【了承】

【議題3 2020年度事業の実施状況について】

資料に基づき、2020年度事業の実施状況について説明（副館長）。

梶原委員長

ただいまの報告について御意見、御質問があれば御発言をお願いしたい。

魚住委員

資料2（付）図書館専門委員の意見への取組状況等の12「横断検索の操作や相互貸借の仕組みの説明をしたチラシ等の作成をして欲しい」という私の挙げた意見に対して、これまで図書館報「あゆち」において取り上げたという回答だが、横断検索とはどういうものかといった説明が中心である。ログインの方法や手続き、どんな使い方ができるのか等のより詳細なものがあるとよい。市町村図書館で配布できるようなものをお願いしたい。

総務課企画グループ課長補佐

横断検索についてはフライヤーなど工夫したうえで検討したい。しばらくお待ち

ちいただきたい。

梶原委員長

他に御意見、御質問があれば御発言をお願いしたい。

吉村委員

資料2の別表2の事業計画の取組1に「外国人県民の方へのサービス」の資料収集目標100冊に対して、197冊の収集、うち電子書籍は125冊とある。外国人の方に電子書籍をどのように使っていただくか、電子書籍を借りるといふ最初のとっかかりが難しく、当館でも必要な方にどう届けるか悩んでいる。県図書館ではどのように利用促進を進めていくのか、取り組んでいる事などがあるか。

サービス課人文・地域グループ課長補佐

電子書籍の125冊は、外国人の方を対象とした日本語の初学者のための資料が中心となっている。電子書籍のトップページでジャンル別に書籍の表紙を紹介しており、日本語学習のカテゴリーも設けている。

外国人の方への広報はまだ始めたばかりで具体的な取組を行っていないが、今後検討していきたい。

梶原委員長

他に御意見、御質問があれば御発言をお願いしたい。

伊藤委員

専門委員会の資料をいただき「絵本の選び方」等のYouTubeを見ようとしたが、図書館ウェブサイトのどこにあるかわからなかった。せっかく良いコンテンツがあるのならわかりやすいところに表示しておいてはどうか。

動画は、誰に向けて作成しているかが分かりづらかった。子どもか大人なのか、子どもが対象ならばもう少しわかりやすい言葉が良いし、工夫の余地があるのではないか。

外国人の方へのアプローチについては、SNSを利用して情報発信されると良いと思う。

地域の生涯学習センター等色々なグループの方達の声を見ると、集えるところが欲しいという強い要望がある。感染対策もあり今の状況では難しいとは思いますが、人と会うことは非常に大切である。今後について県図書館として考えていることがあれば教えて欲しい。

サービス課児童・AV・障害グループ課長補佐

YouTubeにアップした動画は子どもに読書の楽しさを教えてあげる大人を対象に考えている。図書館に初めて来られる方によく聞かれる、どんな本が良いかというお問い合わせにお応えできるコンテンツを作成している。他に英語の子ども本も多数あるので、紹介していきたい。

YouTubeの入り方が分かりづらいことについては、分かりやすくトップページに表示するなど改善したい。

総務課企画グループ課長補佐

高齢者や来館しづらい方へのサービスとして、オンラインでの講座については検討したところ著作権の点で難しいところもある。高齢者のようにパソコンから縁遠い方もおられるので、色々と試行錯誤をしながら検討していきたい。

梶原委員長

他に御意見、御質問があれば御発言をお願いしたい。

山本委員

外国人県民の方へのサービスについて、外国人の方々がどんな情報を必要としているかは地域のNPOや、市町村の行政がよく知っている。地域のそのような施設が当事者にとっては情報が得られる支援機関となっている。その方たちが知的に自立するために図書館は存在するという意味でも、このような情報を把握している支援機関と繋がると外国人の方々のニーズが見えてくるのではないか。市町村の図書館とでは立ち位置も異なると思うが、支援する側の情報を集めるとか、県の外国人や障害者の方と関わる課と連携する等、図書館として後方支援ができると思うが、どう考えているか。

サービス課人文・地域グループ課長補佐

今のところNPOとの連携は実施していないが、県の多文化共生推進室のスピーチコンテストで資料展示を行ったり、日本語学習の場所として当館の会議室を提供している。市町村ほど外国県民の方と距離が近くはないが、多文化共生推進室との連携を密にすることで支援団体とも今後連携できるようになればよいと思う。

梶原委員長

図書館同士だけでなく、関係団体との連携も検討をお願いしたい。  
他に意見がなければ議題3については了承でよろしいか。

【了承】

梶原委員長

それでは最後に議題4のその他に移らせていただく。  
委員の皆様には本日の議題以外の事でも構わないので、何か御意見があればお願いしたい。

大道委員

資料2（付）の委員意見への取組状況の15の読書のバリアフリーに関してだが、環境整備を計画的に進めているようだが、ハードウェアの充実以外にも名古屋市鶴舞中央図書館、明生会館、ライトハウス等と連携を深めて読書のバリアフリーを進めて行って欲しい。

県内の高校生のビブリオバトルの決勝戦をこの大会議室を会場として開催して



いる。来年度も11月に開催を予定しているので、皆様にも御観覧いただきたい。

梶原委員長

検討をどうぞよろしくお願ひしたい。

サービス課児童・AV・障害グループ課長補佐

読書バリアフリー法は国の作成した基本的計画があり、それに対して愛知県では「あいち障害者福祉プラン」を福祉局で作成中である。その中に読書バリアフリーを計画として盛り込んでいる。アクセシブルな書籍を充実させる、録音図書作成といった現在すでに行っているものもあるが、サービスに携わる図書館職員を対象に研修等を実施する、読み上げ等のデジタルに対応できるボランティアを募集するといった施策も来年度から進めていく予定である。

梶原委員長

他に御意見、御質問があれば御発言をお願ひしたい。

山本委員

コロナウイルスの流行という混乱した状況の中、外国の方やICT（情報通信技術）機器を持っていない方など、情報が得られずに知ることや学ぶこと、場から阻害されている人がたくさんいた。図書館が社会教育施設として何ができるかについて考えさせられた。市民としてもできることをしたい。

特に、大学生は授業のオンライン化により家とアルバイトの往復、あるいは居場所がないといった場合もあり、図書館が集う場所、ほっとできる場所になると良い。やはり図書館は必要だと市民の皆さんが思えるような場所であって欲しい。

総務課企画グループ課長補佐

情報弱者の方へのサービスに対しては、話がずれるかもしれないが、3年程前から県の教育委員会生涯学習課の若者・外国人の学習支援、高卒の資格を取るための補習授業の会場を提供することで側面からの支援をしている。ICT機器がない方へのサービスについては、他の社会福祉施設や学校等の取組を参考にしていきたい。

梶原委員長

情報が得られない外国人の県民について、愛知県はブラジルやベトナムの方が増えている状況だが、ポルトガル語やベトナム語についてはどうか。

サービス課人文・地域グループ課長補佐

多文化サービスコーナーの現状は中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語の書籍がほとんどで、その他の言語は少ない。外国人県民の割合からいうとその次にフィリピン、ベトナムの方になるが、現状は予算と実際の来館者の兼ね合いもあり、ここ数年は電子書籍も含めどの分野の方も等しく使える日本語学習の本を中心に購入し、実際にかなり利用されている。

梶原委員長

他に御意見、御質問があれば御発言をお願いしたい。

魚住委員

資料2（付）の専門委員意見への取組状況の14県内図書館相互の連携強化についてだが、県図書館がまとめたコロナ禍における県内の市町村図書館の開館状況や提供しているサービスについてまとめた資料を市町村図書館に提供してくれたのはありがたかった。外国語の資料を探している方や日本語を勉強している方などに案内できる県内の施設、例えば同資料の5に挙げられている名古屋国際センターライブラリー等、県内にある色々な施設をつなぐ立場として県図書館があれば良い。また、愛蔵くんの検索方法についての資料を作成していただければ助かる。

資料支援課広域グループ課長補佐

県内の市町村図書館の休館やサービスの情報提供について、お役に立てたことを嬉しく思う。情報をまとめる中で混乱した状況下でそれぞれの図書館が工夫しながらサービスを提供されていることが良く分かった。その他の施設の情報やその一覧についても進めていきたい。

梶原委員長

他に御意見、御質問があれば御発言をお願いしたい。

梶原委員長

多くの意見ありがとうございました。皆様からの御協力により無事終了できたことに感謝申し上げます。

館長

皆様からいただいた貴重な御意見は、今後の当館の運営に反映させて参りたい。今後もお気づきの点があれば御意見をいただきたい。

【閉会】